音楽イベントの参加者で賑わうまちなか広場

特集 SPECIAL FEATURE

感じてみませんか まちなかの賑わい

平成30年4月、中心市街地中核施設Mallmall（まるまる）が誕生。市立図書館やまちなか広場には子どもから大人まで多くの人が集い、まちなかに新たな賑（にぎ）わいが生まれています。

また、令和4年4月には民間複合施設TERRASTA（テラスタ）が開業。Mallmallとの相乗効果により、新規出店の増加や雇用の創出、市外からの誘客増加など高い波及効果が生まれています。

ここで、本年度実施した「都城市市民意識調査（ふれあいアンケート）」の回答結果を1つ紹介します。

Q Mallmallの整備で、中心市街地（まちなか）が活性化してきていると思いますか？

そう思う、まあそう思う	38.1%
そう思わない、あまりそう思わない	30.5%
どちらともいえない	18.2%
わからない、無回答	13.2%

「活性化してきた」と回答した人が最も多いことは喜ばしいですが、一方で、「そう思わない」や「どちらともいえない」「わからない」との回答は合計で約6割に上ります。この結果は、まちなかの賑わいがまだ十分でないとの意見とも考えられますが、そもそも、市民の皆さんにまちなかの魅力が伝わっていないことも原因かもしれません。

このため、本特集では昭和から現在までのまちなかの変遷をたどった上で、活性化に向けた官民の取り組みや、現在、新たな賑わいを見せているまちなかの様相などを紹介します。

この賑わいを多くの市民の皆さんにも感じてもらいたい。そんな願いを込めて記事の作成に取り組みました。

※本特集が指す「まちなか」は、10・11ページのマップのエリアです

◎問い合わせ　秘書広報課
☎23-3174

かつて全国一の大型店激戦地と呼ばれた都城の中心市街地

5つの大型店があるまち

昭和30年代後半、都城のまちなかは、国道10号の拡張工事が行われ、大型百貨店が立ち並ぶようになります。特に、昭和40年から50年代までの本市の中心市街地は、中央通りに都城大丸やナカムラデパート、寿屋が軒を連ね、都城駅周辺に橘百貨店、ダイエー都城店がしのぎを削る、全国一の大型店激戦地区と呼ばれていました。

また、中央通りに次ぐ繁華街として賑わっていた千日通りはアーケードが整備され、飲食店や映画館など、84店舗が集積していて、多くの人が行きかっていました。

三股や志布志、曽於など、近隣の住民がバスや鉄道を利用し、買い物に訪れていた都城の中心市街地。昭和初期からこの地を見続けているメインホテルナカムラ代表取締役会長の中村七郎さんに、特に当時の中央通りや千日通りの賑わいについて話を聞きました。

①中央通り商店街（昭和42年）、②中央通り商店街（昭和39年）、③中央通り商店街（昭和52年）、④⑤サンロード千日商店街（昭和52年）

娯楽を求めて賑わった通り

元々、唐人町として栄えていたまちなかは、中央通りに呉服店や電気店、千日通りに映画館やパチンコ店など、商業や娯楽が集中していました。中村さんは「特に娯楽は、近隣の市町村でも、ここだけにしか存在しなかったので、人々はそれを求めてまちなかに集まっていた」と語ります。

さらに、日南や志布志、宮崎、鹿児島を結ぶ交通の結節点だった都城。中村さんの父親は商売の地として選び、昭和の初めにふとん店を中央通りに構えます。幼少期から店の手伝いをしていましたが、大学進学を機に、一度上京した中村さん。昭和40年過ぎに衣料品を中心としたナカムラデパートを父親が開業したことに伴い、都城に帰ってきてナカムラデパートに勤めることになります。

「当時は、仕入れた衣料品への値札付けを夜中までかかって作業し、それが翌日に飛ぶように売れていった」と中村さんは振り返ります。それからデパートは拡大を続け、最終的には、地上6階、地下1階建てまで拡大。また、中央通りには、若者向けの婦人服を中心に扱う寿屋や、その上の世代の婦人服を中心に扱う都城大丸もあり、それぞれの店舗の特色を生かし、切磋琢磨して店を切り盛りしていました。

賑わいの転換点

昭和53年、大店法が改正され、大型店が郊外に進出できるようになると、都城の郊外にも大規模な駐車場を備えた大型店が進出し始めます。その後、ナカムラデパートは、平成7年に宿泊業に転換。まちなかの人の流れが大きく変わっていきます。

メインホテル株式会社
代表取締役会長
中村 七郎 さん

中心市街地の変遷

- **昭和31年** 都城大丸開業
- **昭和37年** 上町中町アーケード工事完了
- **昭和38年** 国道10号中央通り拡張工事完了
- **昭和48年** 橘百貨店開業 ー（昭和50年閉店）
- ナカムラデパート開業
- ダイエー都城店開業 ー（平成20年閉店）
- 寿屋都城店開業 ー（平成14年閉店）
- **昭和50年** 旭化成サービス都城店開業 ー（平成7年閉店）
- **昭和52年** 千日通りアーケード工事完了
- **平成6年** 都城まちづくり株式会社設立
- **平成16年** 都城大丸センターモール開業
- ウエルネス交流プラザ開業
- **平成19年** 千日通りアーケード撤去
- **平成23年** 都城大丸閉店
- **平成30年** 中心市街地中核施設Mallmall誕生
- **令和4年** TERRASTA開業

消えた百貨店 ―
託された“まちなか”の再生

① Mallmall マルシェまちなか広場、② Mallmall マルシェ中央通り、③ Mallmall マルシェ攝護寺前、④まちなか広場・親子ファミリーアート

閉店した都城大丸

大型店の撤退から、新しい形でのまちなかの再生のプロセスを都城商工会議所の田爪邦士専務理事にインタビューしました。

衰退の足音

平成に入り、消費者ニーズの多様化やモータリゼーションの進展などに伴い、ロードサイド型店舗の出店が郊外に相次ぎます。こうした動きと連動するように、まちなかの大型店3店舗のうち2店舗が閉店。まちなかの魅力低下が進み、ピーク時（昭和60年）には9033人だったまちなかの終日歩行者通行量（休日）も徐々に減少し、平成23年には、ピーク時の約20分の1（458人）にまで落ち込みました。

平成23年には、中心市街地のシンボル的存在であり、最後の大型店であった都城大丸が閉店。これによって、さらに求心力が落ち、通りにシャッターを下ろす店舗が増えていきました。

官民の力で苦境を脱却

この百貨店閉店を受け、都城商工会議所を中心とする地元経済界が立ち上がり、平成24年に跡地などの再生を目的とする会社を設立。平成25年には跡地などを一括取得し、商工会議所が主体となってアンケート調査や市民ワークショップを実施していきます。

その後、集約した市民の意見などを基に、市が図書館や子育て世代活動支援センターなどの公共施設を整備。新たな賑わい創出の拠点となる中心市街地中核施設Mallmallを平成30年に開業しました。

さらに、令和4年4月には、民間会社がホテルやスーパーマーケットなどの複合施設TERRASTAを開業。食料品や生活雑貨などの買い物ができる環境が整ったことによるまちづくりの推進や、観光振興に取り組んでいます。

都城商工会議所
専務理事
田爪 邦士（くにお） さん

中町 17 街区 2 号
TERRASTA 2 階
☎ 23-0001

都城まちづくり株式会社
都城市まちなか交流センター施設長
岩下 有毅（ゆうき） さん

中町 17 街区 19 号
☎ 21-6121

平成 31 年に入社し、まちなか交流センターやまちなか広場のマネジメントに携わりながら、市民とまちなかの架け橋になれるよう取り組んでいます。この施設で交流が生まれ、コミュニティに発展すると考えていて、さらにこの流れをまちなか全体に広げていきたいです。今の時代に合わせた新しいまちの賑わいを実現していきます。

いつ行っても ちょっと立ち寄れる 場所を作りたい

新たな賑わいを作るため奮闘する商店主にインタビューしました。

中学時代、まちなかに友だちや家族と買い物などによく出掛けていました。社会人になってからも通勤で通っていて、まちなかが生活の一部になっていたのかもしれません。

仕事のかたわら、アートリーフに興味を持ち、専門の先生に師事し勉強。そんな時、まちなかの1区画が貸し出されます。通勤で見かける度に、誰かに借りられてしまうのではないかとの思いにかられ、一念発起。平成13年に花屋グレンツェンを開店しました。

その後、老舗百貨店の閉店から、人通りは大きく減少。厳しい時代を過ごしながら、新しいことにもチャレンジし、店を切り盛りしてきました。

MallmallやTERRASTAが誕生して、多くの人がまちなかに集うようになりましたが、まだまだ商店街まで人の流れができていません。ただ、その部分を行政に任せるのではなく、自分がやらなければとの思いで、フラワーアレンジメントやジェルキャンドルなどのワークルーム（体験教室）を開くようになりました。

まちなかで食事をする機会も増えていると思います。その食事までの間など、ちょっと寄れる場所を作りたいとの思いで始めました。こんな店もあるよ、こんなこともできるよと、まちなかを歩くきっかけになるとうれしいです。

グレンツェン　店主
松原 志保子 さん

上町 9-23
☎ 46-9511

and.m.lab あつちむつみさんによるジェルキャンドル教室

東上町通りに面したワークルーム

まちなかのいまに会いに行こう

まちなかを歩いてみると、素敵な店や働く人の笑顔に出会えました。皆さんも、まちなかを歩いて、自分だけの新しい発見をしてみませんか。

1 Felice（フェリーチェ） 平野 佳明 さん

岐阜県出身の平野さんと妻で本市出身の千恵さんが仲良く経営しているデザート店。新しいことに挑戦し続ける熱い思いで、ふわふわのパンケーキを焼き上げています。

☎80-6162
【定休日】火曜日、不定休（月２回）

2 BEACON eco store（ビーコン エコ ストア） 川越 ゆきこ さん

環境に負荷をかけない生活を広めたいと語る川越さん。脱・プラスチック容器のため、調味料や日用品の量り売りを行っています。

@beaconecostore
【定休日】火・土曜日、その他不定休

3 Caramel studio（キャラメル スタジオ） 玉利 節子 さん

「自分が惹（ひ）かれる仕事をしたい」と前職を辞め、同店をオープンした玉利さん。ブラックペッパーがアクセントの「大人のチーズ饅頭」は、お酒にも合うと評判です。

@cheeman_otona 【定休日】月・火・金曜日

4 aitena（アイテナ） 坂元 友樹（ともき） さん

人気店のオーナー同士が集ってオープンした同店。店内では、「カッパ」をモチーフにした雑貨が目を惹きます。また、ホットドッグやドリンクのテイクアウトも楽しめます。

☎77-9244 【定休日】火曜日

5 こまものやマルニ 西 亜紀代 さん

雑貨好きが高じて、本店をオープンした西さん。店内には、西さんセレクトの食器やキッチンアイテムなど、こだわりの生活雑貨が並びます。自分だけの「とっておき」を探しに来てみませんか。

☎26-5566 【定休日】月・火曜日

6 Bleriot's（ブレリオ） 小妻 優太 さん

市内でも数少ない時計修理士の小妻さん。東京での下積み時代を経て、２年前に同店をオープンしました。持ち主の大切な時計が、小妻さんの手で再び時を刻み始めます。

☎66-8106 【定休日】月・火曜日

7 FLORA Tearful eye（フローラ ティアフル アイ） 溝田 賢治 さん

花を暮らしの身近なものにしていきたいと話す店主の溝田さん。旬の花にこだわり、旬だからこそ長持ちする花を取りそろえています。

☎22-3844
【定休日】不定休

8 wandern（ワンダレン） 關（せき） 良太郎 さん

自分を表現する場として、４年前にセレクトショップをオープンさせた關さん。店内には、關さんが選んだ衣服や雑貨、作品がアートのように飾られています。

@wandern_miyakonjo
【定休日】月曜日

9 ノクタアン 阿多 耕平 さん

隠れ家的なカフェバーを牟田町から国道10号沿いに移転オープン。みんなに開かれた店として「気取らず気軽にワインを楽しんでほしい」と店主の阿多さんは語ります。

@nocturne_kouhey ☎77-9371 【定休日】木曜日

10 Carte Blanche（カルト ブランシュ） 濱野 史郎 さん 庸子（ようこ）さん

映画「かもめ食堂」をモデルに、明るく開放的な空間とおしゃれなインテリアで飾られた洋食店。手作りのドレッシングやソースにマッチした料理は、お酒好きの店主夫婦が選んだワインと相性抜群。

☎77-9914 【定休日】月曜日
※火曜日ランチのみ休み

11 ラザニアの店 W（ダブリュー） 中島 渉（わたる） さん

「子どもからお年寄りまで楽しめる料理を、地元都城で」との思いで、店主の中島さんが試行錯誤を重ねてたどり着いた同店のラザニア。季節ごとに考案される旬のメニューも、来店の楽しみの一つです。

☎51-9090 【定休日】水曜日

さらなる賑わいの創出へ ―

北九州でのリノベーションまちづくりの経験を生かしながら、本市のタウンマネージャーとして、まちなかの活性化に取り組む二宮啓市さん。また、建築や都市計画、まちづくり、エリアリノベーションなど多様な活動を展開しながら、本市の中心市街地中核施設に関するアドバイザー会議委員なども務めた杉本弘文さん。

立場の異なる2人に、さらなる賑わいの創出へ向けてインタビューを行いました。

歩いて体感、まちなかの魅力

昨今、居心地が良く歩きたくなるまちなかづくりを進めるため、車社会から人中心の空間に転換し、人々が集い、憩い、多様な活動が繰り広げられる場に改めようとする動きが進んでいます。都城も、Mallmallをはじめとした中核施設の整備に加えて、リノベーションなどにより、歩きたくなるようなまちなかに変化しつつあります。

まちなかには、長年愛されている老舗店のほか、県外で経験を積んだUターン者などが新しく開いた店など、魅力的な店舗が花開いています。まちなかで事業を展開したい意欲的な人は数多く存在しますが、事業を展開する土地や建物などの場所を確保することが難しい現状もあります。この土地の流動化が進まないことは、タウンマネージャー就任当初からの課題でしたが、関係者との調整に取り組み、少しずつではありますが、土地所有者などのマインドにも変化が生じてきたと実感しています。

江戸時代から続く都城中心部の豊かな歴史を土壌として築かれつつある、新しいまちなか。車で通るだけではその変化に気づくことは難しいですが、歩くことで新しい変化を発見できます。ぜひ車から降りて、歩きながらまちなかの魅力を体感してみませんか。

中心市街地活性化
タウンマネージャー
二宮 啓市 さん

市民主体による創造的な賑わいの創出

都城工業高等専門学校
建築学科准教授
杉本 弘文 さん

人口減少を前提としたコンパクトなまちづくりが求められる中、Mallmallなどの中核施設の整備により、都城のまちなかエリアの価値は、着実に高まってきていると感じています。

一方で、企業活動などに使用されていない店舗やビルなどの遊休不動産のさらなる活用や、中核施設に訪れた来街者をまちなか全体へと導く回遊を促す仕組み、人と人をつなげるネットワークづくりなど、今以上の賑わい創出のために、私たちができる取り組みやまちのポテンシャルはまだまだあると考えています。特に、事業者や来街者同士がつながり合うことで、取り組みの持続化が期待できます。さらに、若年層を積極的に受け入れる「場」が必要です。若者が賑わいづくりに参加しやすい雰囲気を作り出すことで、その賑わいが次世代につながっていきます。若い人が活躍できる「場」や自己実現の「場」として、まちなかが持っている機能などを最大限活用していきましょう。

大人は子や孫世代に対して、希望ある未来を託す責任があります。まちなかの持続的な賑わいづくりのために、私たち市民による主体的な取り組みが今以上に必要だと考えています。皆さん、まちなかの未来に向けて、一緒に考え動いていきませんか。

イベント参加や買い物、食事、散歩など、まちなかには、さまざまな目的で人が集っています

①②⑦⑩⑪まちなか広場、③千日通り、④円頭庵通り、⑤まちなか交流センター、⑥Cプラザ、⑧TERRASTA MARKET、⑨TERRASTA

※本紙「まちなかdeわくわく」コーナーでは、毎月まちなかの旬な情報を紹介しています。今月は26ページに掲載。ウェブサイト「まちたん」でもイベントなどの情報を詳しく紹介しています

まちたん

感じてみませんか まちなかの賑わい

今回の特集記事の作成にあたって、多くの皆さんに取材の協力をいただきました。紙面上で紹介できなかった方も含め、深く感謝いたします。

まちなかは、商業や居住、公共サービスなど多様な都市機能が集積し、長い歴史の中で地域の文化と伝統を育んできた「まちの顔」とも言うべき地域です。特に都城のまちなかは、市全体に加えて近隣市町を含めた圏域の中心地として栄えてきました。

移ろいゆく時代の中、以前と同じような賑わいが復活することは難しいのかもしれません。ただ、新しい芽が息吹き、新たな賑わいは着実に生まれています。

MallmallやTERRASTAの整備により、ステージは整っています。次は皆さんの番です。まずは、まちを歩いたり、イベントに参加したりして、新しい賑わいを感じてみませんか。